

浄土宗
善立寺

香蓮

平成25年7月1日
発行所
方便山香蓮院善立寺
塩尻市広丘野村793-1
電話0263-53-2645
FAX0263-53-2645
発行人:小路祥永
編集人:小路竜嗣

五月六日 当山第廿六世住職 小路観山上人が遷化致しました

現住職の言葉

平成二十五年五月六日、当山の第二十六世小路観山前住職が数えで八十九歳で往生致しました。

密葬は五月十日、正覚院住職、梅井戸宏道上人を導師に親族寺方関係者のみで執り行われました。

本葬は六月二十七日、檀信徒会会長太田基正様を葬儀委員長に、檀家葬にて執り行われました。



平成16年 施餓鬼法要にて

法号

しょうれんじやせんよしやうにんしょうあぜんのんかんさんだいかしやう
常蓮社泉誉上人照阿善恩観山大和尚

受付開始頃は霧雨でしたが、途中から好天に恵まれ、二百人を超す列席者で一杯の

本堂内も涼しくありがたかったかと思ひます。

慶林寺住職、松村教道上人を大導師にお迎えし、お坊さんも宗派を超えて約六十名列席されました。

このように多くのお寺方の御出席をいただき、あらためて前住職の親交の広さに驚かされました。

また檀信徒・一般会葬者、約三百五十名の方々からご焼香を頂きました。お忙しい中、ご焼香頂き、また列席頂いたことに對し、心より御礼を申し上げます。

本堂の荘厳（飾付け）も、本堂の約半分が白布に覆われ、須弥檀が花々に包まれるという、住職の本葬特有の飾り付けに、檀信徒の皆様も驚かれたかと思ひます。

本葬は善立寺御詠歌隊の皆様「光明摂取和讃」のお唱えから始

まり、決して華美でなく、厳かで心のこもったものとなり、我が父、前住職も皆様に心より感謝していることと思ひます。

前住職は大正十四年に生まれ、早くに父母に先立たれ、八歳で信州新町の玉泉寺に入りました。

以来八十年間、仏様に守られてお寺で生きてきました。詳しくは語らなかつたのですが、沢山の悲しいこと、苦勞したことがあつたかと思ひます。

太平洋戦争では兵役に就くこと四年余、復員後に松本市和田の観音寺の住職を十三年間務め、縁あつて現在の善立寺に入りました。

その後、昭和四十八年から平成十八年までの三十五年間、善立寺住職を務めました。まさに、戦後から四十八年間、住職としてお寺の発展に尽力して参りました。

父は明るく冗談で周りの者をいつも笑わせておりました。また、家族を何よりも大切にする父でもありました。

一人で生きてこなければならなかつた環境の中で、力一杯明るく前向きに生きてきた父でした。行き届かない点多かつたかと思ひますが、暖かく支えていただいた檀信徒の皆様や多くの皆々様に心

より感謝申し上げます。ありがとうございました。

副住職の言葉

先代観山上人はいつもニコニコして、孫婿である私も実の孫のように可愛がってくれました。沈んだ気持ちでいても、お話しているうちに、いつの間にか笑顔にしてくれる方でした。

また、お盆の棚経の際、檀家の皆様から先代との思い出話をお聞きする事が多く、皆様から愛されていた方だったのだなと感銘を受けました。

善立寺の持つ和やかで暖かな寺風は観山上人の人柄と常日頃お力添え頂いている皆様が創りあげたものでございます。

私も、先代の上人方が燈してきてた善立寺の法燈を任せて頂けるよう、より一層精進して参りますので、今後共宜しくお願い申し上げます。



最近の写真（4月病院にて）

密葬儀

五月十日、善立寺にて密葬儀を執り行いました。最近では近親者のみの葬儀を「密葬儀（密葬）」と呼ぶことがあります。本来の意味としては、後に行われる本葬儀に先立って、近親者のみで執り行なわれるものを「密葬儀」と呼びます。



善導大師の逸話「二河白道」を模した
花祭壇（密葬儀）

本葬儀（檀家葬）

6月27日（木）本葬儀（檀家葬）が善立寺本堂に於いて執り行われました。檀信徒皆様の御尽力により、大導師に慶林寺上人をお迎えし、五仏六役で盛大に執り行えた事、ここに御礼申し上げます。

香 語

※一般の方の引導にあたるもの

正覚院上人密葬香語

夫れ以れば、法一人弘まらず、人を持って

興隆す。人白すから進まず、法に依て開悟す。

爰に善立寺第二十六世 中興

常蓮社泉誉上人照阿善恩觀山大和尚

往因の感ずる所希れに受け難き人身を受け、

宿善の薫ずる所、適々剃髪染衣の身となり、

觀音寺住職を務められた後、昭和四十八年より当山二十六世として法統を継承さる。

爾来三十有三年、その間専ら寺門の経営につとめられ、愛宗護法の念篤く、檀信徒の教化につとめらる。

凶らざりき上人娑婆の化縁にわかに尽き、去る五月六日世寿八十九歳を安祥として正念往生せらる。

上人は資性温厚、明朗にして親しみ易く、人間味の溢れるその徳風は、地域の人々と融和し、檀信徒の信望を集め、よくその協力を得て、本堂・会館・客殿・庫裏、新築事業が円成され寺觀一新さる。

その間、浄土宗松本組部長の役職をはじめ、塩尻仏教信和会会長、信濃中央仏教会会長等の要職を歴任さる。

大正・昭和・平成の世の流れの中で兵役にも赴かれ、社会情勢による不況時代、戦後の混乱期も過ぎたのち、善立寺の法燈を現任職祥永上人に継承された事は、師僧上人の偉大な御薫陶の賜ものなり。

今ここに現任職・檀信徒一致協力寺門の繁栄興隆に邁進する姿顕著にして後顧の憂いなし。

本日送葬の典儀に当り、その頭功を頒し徳風を懐い、恭しく香華を献じ以って上人の宝

地を莊嚴し回顧の至情を捧ぐ。

冀くは上人誓って弥陀安養界に至り再び穢土に還来し、この土の天人を度し、哀愍護念を垂れ給わんことを。

送行の語に曰く

到彼華開聞妙法 十地願行自然彰

平成二十五年五月十日

寬簞宏道 敬白



本堂の莊嚴（本葬儀）

慶林寺上人本葬香語

この世は無常なり、朝つばみより開きはじめる清らかなる花も夕べの風に散り急ぎ、夜の間に結んだ葉の上の露も朝日にあたるとたちまちに消えてしまふ。その道理を知りながら、いつまでも栄え続け、どこまでもこの世に居られると思う人の心は悲しいかな真実より離れている。

いつしか無常の風吹けば、心だけを残して

この世を離れなければならぬ。

多くの草木が花咲き、芳香をはなつ春爛漫の時が流れ、新緑まさに滴らんとする時、去る五月六日、方便山第二十六世中興 常蓮社泉誉上人、娑婆界の化縁尽き世寿八十九歳を一期として涅槃寂滅の相を示さる。哀悼痛惜、その尽きることなし。

茲惟 新歸元 善立寺第二十六世中興

常蓮社泉誉上人照阿善恩觀山大和尚

莊嚴浄土 南無阿弥陀佛

觀山上人は八歳の幼少の身で佛門に入り、現信州新町の玉泉寺に入寺し修行するも太平洋戦争に出征、復員後は市内和田の觀音寺の住職を努め、昭和四十八年に縁に随って善立寺に入山、爾来善立寺第二十六世住職として平成十八年まで不撓不屈の堅信を以て、當山護持、興隆発展の為、銳意専心尽力され、愛宗護法の念の志を以て自行化他檀信の教化に当たる。

其の間、檀信徒の厚い信頼を得ると共に檀信徒と力を合わせ、本堂、会館、客殿、庫裡等を新築すると共に境内も整備され、輪奐の美を一新される。亦、上人は仏教会発展のために信濃中央仏教会会長、県仏教会理事、塩尻仏教信和会会長等を推挙され、重責を全うされたことは松本組寺院のみならず、地域仏教会寺院の周知するところであり、その功績は大いなるものがあり、明るく飾らない人柄、春風を以て人に接する姿は忘れられない。

先に寺庭婦人咲恵さまを涅槃に送るもよく世上の苦樂に順応し寺訓を堅持、恭儉己を持

するや幽婉芝蘭を擁護するが如く、晩年は三人の孫、二人の曾孫を可愛がり、人に接しては和顔愛語善行を益々重ね、人を案じ以て我が身を潤すお人柄、目に見えない大いなる遺産を残した上人のご遺徳を深く胸に刻み、いささかなりとご遺恩に報いいたす決意をお誓いするところである

願わくは上人誓って弥陀の安養界に到り、再び穢国に還来してこの土の人天を哀愍護念し給わんことを。敬白

平成二十五年六月二十七日

慶林寺 誓誓教道

弔 辞

総本山知恩院門跡伊藤唯眞猊下

それ道客は西に去つて還らず

空しく慈雲を暁闇の残月に仰ぐ

法音は耳に留まりて滅せず

長えに智光を闇夜の明燈に仰ぐ

ここに長野教区松本組善立寺

前任職 故小路觀山上人

暁心は念々 渴想は玄々深く念仏の奥儀を極め浄土教を弘通し衆生を教化して化導宗内に遍し

昭和五十二年善立寺の法燈を継承 爾来二十有九年にわたり本堂庫裡再建落慶等寺門の恢興と檀信徒教化に盡瘁 その功績により善立寺「中興」と號せらる

宗内においては長野教区松本組部長として宗門隆盛教化発展に寄与せられし功績 洵に甚大なり

地域社会においては仏教会会長として同会の発展に貢献せらる

その佛作佛行のお姿 門葉ひとしく 尊崇しておかざる処なり

而る率爾として鷲嶺に寒風駛り龍河に激水流れ世寿まさに八十有九歳 溘焉として姿に上品蓮台に托し意を安養の淨利に移し給う

僧俗 唯々悲痛の涙に噎び 愁嘆の袖を拭い奉る挙宗遷化を悲しみ衷心より生前の温容を追慕し恭しく一期の功績を頌し謹んでその徳業を仰ぎ奉る

希わくは上人 還来度世の本願虚しからず慈航を迷津に浮かべ浴く衆生を淨利に度し給わんことを

平成二十五年六月二十七日

総本山知恩院門跡大僧正願誓



表葬儀の様子

善立寺檀信徒会会長 太田基正様



弔辞 太田会長

善立寺檀信徒を代表して謹んでお別れの言葉を申し上げます。去る四月桜の花が例年より少し遅れて咲き、ようやく春の訪れかと思われましたが、その後も春と冬とが行き交い、高齢者の体調にも変動をきたさなければ良いが、と氣遣われる日々が続きました。

五月に入って連休が終わり、かねてから予定されていた、早朝の檀信徒会役員による墓地清掃、樹木の剪定、除草剤散布等が終わって、家で一休みしていた時、父二十六世観山上人 ご逝去との知らせを受けました。そう言えば、最近お寺を訪ねる機会が多かったのに、ここ暫く何時もにこにこして話好きな人間味溢れるお

姿をお見かけしなかった事に気づきました。

天候が不順でお身体にさわったのかもしれない、まだまだ色々なお話をお聞きしたかったのにと、悔まれて残念でなりません。

観山上人は八歳にして両親を亡くされ、長野市信州新町の玉泉寺で養育を受けながら修行を積み、青年期には兵役にも赴き大変ご苦労されたと同っております。

その後松本市和田の観音寺住職を務められ、昭和四十八年には三時住職不在だった、この善立寺の住職にと請われて入山されました。

その時、たまたま寺総代の一人だったのが私の父親で、このたびの観山上人最後のお見送りに、その子供である私が関わった事にも偶然とは思えない不思議なご縁を感じております。

その後、観山上人が入山されてから、年号も変わり、その間も観山上人は檀家との融和に努め、檀家からは尊敬と親愛の念をこめ おっさま と呼ばれ親しまれて

来ました。

そうしている間にも建物の老朽化は進み、平成二年には本堂、会館建立計画が立案され、観山上人はじめ、先人方の檀家への説得は、檀家の心を一致協力へと動かし、平成五年、現在の善立寺の礎となる本堂と会館の建立を実現させたのです。

その後、平成十九年に庫裡、客殿、二十一年には薬師堂と観音堂を合祀して薬師観音堂の建立に致しました。観山上人はこれら一つ一つ全ての事業に関わりつつ、寺の外にあつては長年仏教会の要職をも務めてこられました。

又、過去に檀家が心配してきた寺の後継者にも恵まれ、ご自身の目でも確かめられて、安心して旅立たれた事と思います。

今は晋山式を済まされた第二十七世祥永住職が寺の将来を見据えて、立派に努められていきます。かつて、廃仏毀釈の荒波を受けて、困難な一時代を乗り越えてきた先人方のお寺への思い

は今なお受け継がれております。

檀家はこれからもお寺を支えて参ります。どうか善立寺のご本尊、阿弥陀如来様の下で心安らかに過ごして下さい。合掌

平成二十五年六月二十七日
善立寺檀信徒会

会長 太田基正

表葬儀配役

大導師 慶林寺上人
協導師 見性寺上人

瑠璃光寺上人

浄念寺上人

法然寺上人

無極寺上人

見性寺副上人

林昌寺副上人

瑠璃光寺副上人

浄念寺副上人

専念寺副上人

浄林寺上人

宗林寺上人

法蔵寺上人

善導寺上人

高松寺上人

真光寺上人

恭儉寺上人

浄心寺上人

常照寺副上人

殿司

東漸寺副上人
専称寺副上人
玄向寺副上人
浄林寺副上人

宗林寺副上人
浄念寺副上人

林昌寺上人
地蔵堂上人

正覚院上人
常照寺上人

東漸寺上人
照明寺上人

古川寺上人
玉泉寺上人

遺弟 廿七世観蒼祥永上人

今回の紙面では取り急ぎ

先代観山上人の遷化についてお伝え致しました。予定

しておりますが、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

また、香語・弔辞等は寺院用語が多く、読みづらいかとは思いますが、お贈り

頂いた方のお気持ちをそのままお伝えするため、原文

のままにて掲載致しました。

(童嗣)